

函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）  
への意見に関する検討会議による協議・検討結果報告および要望について

令和6年9月24日

函館市教育委員会

教育長 藤井 壽夫 様

函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての  
基本的な考え方（たたき台）への意見に関する検討会議

令和5年12月に標記たたき台への意見に関する本検討会議による協議・検討が開始され、新たな博物館機能に関し、幅広い分野の団体や市民の代表からなる26名の委員により、これまで全7回にわたり議論を重ね、委員各々が知識や知見を発揮し、市民コンセンサスが図られた検討会議意見として取り纏めるべく主体的に議論に参加し、多様な意見を導き出すことができました。

つきましては、別添のとおり、たたき台に対する「項目別修正提案意見」として本検討会議の協議・検討の結果としてご報告させていただきます。

函館は歴史的に人々の交流の結節点の役割を担ってきました。そのことから、函館市の博物館等の5つの施設には、函館のみならず、道南や北海道、近隣諸国の歴史や文化、自然を物語る文化財や貴重資料が多数収蔵されています。これらの施設は、函館市民にとっては地域を深く理解するための学びと地域創造の拠点として、また、観光や移住等で函館を訪れる方々には愛着を持っていただくための文化交流の拠点として、非常に重要な役割を果たすものであるべきと考えます。

一方で、これらの施設の展示環境と保管環境の現状には課題があります。展示施設が5か所に分散していることに加え、博物館本館のように建物が古く構造上バリアフリー化に対応できていない施設があります。また、資料保管においては、収蔵スペースの不足に加え、温湿度管理に大きな課題があり、一部の館は津波災害の影響を受けやすい場所に立地しています。これらの課題は多様な人々に開かれた歴史文化のまちづくりの観点からも、地域の文化財・貴重資料の保護の面からも見過ごすことができません。

そこで、本検討会議は、函館市が実施する函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたり、以下の2点を要望します。

- ・地域の文化資源の可能性を存分に発揮できる総合ミュージアムの実現
- ・博物館を交流と協働の場とする多様性を包み込む地域文化活動の推進

これに加え、喫緊の課題として、文化財・貴重資料の収蔵環境の改善と専門的人材の育成を速やかに実現されることを希望します。

本書の趣旨をご理解の上、よろしくご検討をお願いいたします。

以上

※ なお、本検討会議では、函館市（仮称）総合ミュージアムに関する具体的な方向性について、多数の貴重な意見が披露されています。議事録等を今後の整備に活用していただきたいと思います。